

9) ミサ中説教 4月18日

朗読 使徒言行録4：13-21

福音 マルコ16：9-15

兄弟姉妹の皆さん、今日の説教では弟子の資格について話すようにと、イエスが私に促されました。

今日の福音（マルコ16：9-15）を見てみましょう。マリア・マグダラは、弟子たちのところに走って行って良い知らせを伝えました。ところが、誰もそれを信じなかったし、受け入れませんでした。彼女には弟子の資格がないのでしょうか？

エマオへ向かおうとしていた弟子たちだと思いますが、彼らが帰って来て良い知らせを伝えたのに、それを聞いた弟子たちはまたもや信じませんでした。この二人の弟子も、弟子である資格はないのでしょうか？

私たちも、自分たちの親しい人に福音を告げても、信じてもらえないというような経験はないでしょうか？ 私たちが弟子としての資格がないから、あるいは神学の知識不足から、十分に黙想会に参加していないから、、、などなどの理由によるのでしょうか？

皆さん、イエスは弟子たちが悲しみ嘆いているのを咎（とが）められました。イエスは齒に衣を着せずにまっすぐに真実を告げられました。なぜでしょう？ それは、イエスが弟子たちを、私たちを愛しておられるからです。イエスは私たちに回り道をして欲しくはないのです。あるいは、同じところに留まり続けていて欲しくないのです。私たちが先に進むことを望まれています。

驚くべきことに、イエスはこの不信仰でかたくなな心の弟子たちに、「すべての創られたものに福音を宣べ伝えなさい」と言われるのです。しかし、どうやったら不信仰でかたくなな者が良い知らせを告げることができるのでしょうか？！ 無理ですね。

では、朗読を見てみましょう。（使徒言行録4：13-21）これが今日のメインディッシュです。神が弟子である資格を与えてくださることがわかるでしょう。ペトロやヨハネがどう変えられるかがわかるでしょう。「資格」とは何でしょう？

彼らは無学な普通の人々でした。この普通の人々によって福音の津波が起こり、こんにちまでその波は続いています。この津波は、知識のある人々、学問のある人々によって起こされたものではありません。ありがたいことに、彼らは後に、この波に跳び乗りました。イエスの弟子たちの語り方は、大胆で自由、何者も恐れず、人に媚（こ）びないことに議員たちは気づきました。これは、神の子供たちの持つ「大胆さ」です。議員たちには彼らがイエスの弟子であることが分かったのです。

皆さん、私たちがイエスと共にいること、そしてイエスをしっかりとつかんでいること、

これが鍵です。「長い間学び、知識を得てからイエスの弟子になろう、イエスの証人になろう」ということではありません。

私は教皇パウロ6世が書かれたことを思い出しました。1975年12月8日の回勅「使徒的勧告 福音宣教」の中で教皇はこう書かれています。(No.41)「昨今の人々は、学者よりも証人の話しを聞くのを好む」(訳注：この回勅は私Josephineの手元にありませんので、日本語でどのように表現されているかわかりません。確認できる方がいらしたら、正式訳では何と書かれているか教えてくださいととても感謝です。)

証人というのは、事が起こったときにその場にいた人、それを目撃した人、それに触れ人、触れられた人のことです。私たちは皆、イエスに触れていただくことができます。イエスにそれをしていただきましょう。

イエスと密着するほど近くにいきましょう。みことばを通してイエスと触れ合いましょう。また教会が開かれれば、秘跡によってイエスと触れ合うことはできますが、しかし、どうぞ、みことばによってイエスに触れ、導かれることを続けてください。

今朝、私はあるみことばの一節を思い出しました。これは、私たちにとって非常に大切な言葉だと思います。

テモテへの第二の手紙2章8-9節です。パウロは牢の中から書いています。「イエス・キリストのことを思い起こしなさい。私の宣べ伝える福音によれば、この方はダビデの子孫で、死者の中から復活されたのです。この福音のために私は苦しみを受け、ついに犯罪人のように鎖に繋がれています。しかし、**神の言葉は繋がれていません。**」

いつか、私たちが永遠の御国に入ったとき、どれほど多くの人たちがこのパウロの言葉によって起き上がったかを見ることができるでしょう。みことばは生きています。神がイエスを死者の中から復活されたことと心で信じ、口でイエスは主であると言い表してください。(ローマ10:9参照) イエスの愛の証しびととなってください。

聖霊を呼んでください。イエスは、聖霊が来たならあなたがたにすべてのことを教え、イエスが話したことをことごとく思い起こさせてくださる(ヨハネ14:26)と約束されたのですから。イエスはあなた方の中に真理を注ぎ込みたいのです。

みなさん、この真理は知的なものではありません。選ばれた知識人たちだけが知ることができるというようなものではありません。この真理はイエスとの出会いによって与えられるものです。イエスが与えようとされているものに、こちらが制限を加えてはなりません。もしかすると、私たちの中にある不信仰、頑(かたくな)さ、疑いがそれをしてしまうかも知れません。

しかし、イエスが十字架上から流された尊い御血によって、それらの妨げは打ち砕くことができます。イエスはそれをしてくださいます。アーメン